

## AAALA ニュース 121 号 内容紹介

### 1, S・ブライエン「ウクライナの死傷者がバイデンの大きな心配」

反攻するウクライナ軍の優勢が伝えられるが、本当はどうなのか。米国の「安全保障研究センター」上席研究員が、ロシアと西側の力関係を分析している。一般に知らされない情報の出所が明記され、参考になる。

### 2, C・ウエップ「平和を凍らせる人種差別」

「ある戦争とその被害が、他の戦争よりも重要でより深刻」とみなすことがあっていいのか。英国の下院議員が背景にある西欧の二重基準と人種差別を告発している。三大陸誌「非同盟の再生」の第 8 論考。

### 3, ジョコ・ウィド「ASEAN はいかなる大国の代理人にならない」

インドネシア大統領が来年の ASEAN 議長国をカンボジアから引き継ぐにあたってのスピーチで、「国際法をまもって平和地域となり世界の安定の礎となる」と強調した。

### 4, キキ・ベリコ「インドネシアを継ぐ G20 は多国間主義の守り手」

G20 議長国は、ことしのインドネシアのあと、来年からインド、ブラジル、南アの順に、中堅国が持ち回る。インドネシアの研究者が覇権主義にかわって多国間主義をすすめる絶好のチャンスだとして課題を分析。

### 5, サンパウロ・フォーラム作業グループの宣言

ラテンアメリカ・カリブ海諸国の 22 か国から 65 の左派・中道左派政党、社会運動組織が参加して 11 月にカラカスで開催。地域での左翼勢力の前進を総括し、世界の民主的多極化の動きを展望している。

6. A・チャベス「出国したベネズエラ人家族の肖像」

アメリカの経済制裁と経済危機の中、ベネズエラから出国した大量の移民。彼らをとりにくく厳しい現実とメディアによるプロパガンダの実態。

7. 田中靖宏「第7回全国キューバ友好の集い」へのメッセージ」

米国の経済封鎖のもと、コロナ禍に加えた相次ぐ自然災害で深刻になった経済危機。たたかうキューバにむけた日本 AALA 国際部長のよびかけ。